

【事例5】

(調査日：平成29年7月24日)

事例名	常設喫茶・支え合いサービス・こども食堂・学習支援
地域	志津地区
実施主体	志津地区社会福祉協議会（志津ふれ愛センター・しづっ子クラブ）
活動要約	住民のふれ合いの場所の提供と多様な支援
主な分野	「居場所づくり」「日常生活支援」「学習支援」
主な関係者	志津地区社協福祉委員・ボランティア

■活動のきっかけ・経緯

○『ふれ愛喫茶』（常設喫茶・平成24年7月開店）と『ふれ愛サービス』（支え合いサービス・平成24年10月事業開始）が始まり、平成29年4月から、こども食堂と学習支援も開始している。

○7カ所で行われている志津地区社会福祉協議会の100円喫茶の中で、常設の喫茶（サロン）をとという声が上がった。

○ふれ愛喫茶とふれ愛サービスの検討は、視察や15回に及ぶ検討会など、約2年かけて行われた。

○場所の確保は難しい問題だが、志津ふれ愛センターは、建物のオーナーの協力で確保することができた。また、ふれ愛喫茶とふれ愛サービスで、赤字にならないように運営をしている。

■活動内容

○ふれ愛喫茶は、月曜日から金曜日の10:30から16:30までで、ふれあい場・拠点となる常設喫茶として運営しており（平成29年6月末現在：スタッフ38名と店長5名）、来客数は年間5,000人を超えている。グループで毎週利用している常連客や昼食を取りながらたっぷりお喋りを楽しむ利用者も多く、サロンとしての機能を果たしている。

○ふれ愛サービスは、日常生活の困りごとを有償でのお手伝いで、ふれ愛喫茶のある志津ふれ愛センターを事務所として、受付・サポーターの手配などを行っている（平成29年6月現在：利用者登録会員192名・サポーター登録会員46名・コーディネーター6名）。最近の月間利用件数は100件を超えている。

○しづっ子クラブは、学習や手作りの食事をしながら安心して過ごせる「地域の居場所」として、こども食堂（対象：中学3年生までの方と保護者。日程：毎月土曜日もしくは日曜日の午前11時から午後3時まで）と学習支援（対象：小学校2年生から4年生。日程：毎週月曜日午後5時から午後7時まで）を、平成29年4月から運営している。

■ポイント・工夫している点

○ふれ愛喫茶は常設喫茶なので、運営を維持していくためには、ある程度の指揮系統など

が必要であるが、ボランティアとして関わってくれている人もいる中で、どのような運営にしていくかがポイントとなっている。

○ふれ愛喫茶の運営当初は、100円喫茶のスタッフを中心に運営したが、接客やサービスが安定するまでは、1年ぐらいかかった。また、来店して、楽しそうだから手伝いたいとスタッフになってくれた人もいる。

○ふれ愛サービスは、ふれ愛喫茶の店長が月曜日から金曜日まで毎日受付を代行していることが、強みとなっている。これは、志津ふれ愛センターの中に、事務所が場所として確保されていること、また、ふれ愛喫茶が常設喫茶として運営されていることから可能となっている。

○志津ふれ愛センターは、関係者同士が交流のできる場ともなっており、1つの重要な活動拠点となっている。

■課題と今後の展開

○ふれ愛喫茶とふれ愛サービスともに、スタッフが足りない。現在のスタッフもそれぞれ事情があるし、また、高齢化している。今後、どうスタッフを確保していくかが課題。

○学習支援は利用者が増えてきている。まずは自分たちでできる範囲で行い、外部の関係者にも協力を求めながら、地域資源を活用していきたい。

